年度	2025		学科・学年	理•1		
授業科目	衛生管理		授業方法	講義		
開講学期	前期・後期	前期・後期		30時間		
授業単位数	1		必修・選択区分	必修		
担当者	杓谷知里		実務経験のある教員	0		
実務内容	薬剤師 グリーンファーマ	シー ひま	これり薬局 高知店			
テキスト	『衛生管理』 日本理容美統	容教育セン	/ター			
教育目標	理容師として必要な感染症 代表的な感染症の病原体、!			策などを理解する		
授業概要	公衆衛生学、微生物学の歴史と感染症の法律上の分類方法などから感染症の体系の理解を図る 理容の業務に必要な衛生管理の知識の理解を図る					
 時間外学習	理合の未務に必安は側工目	生VノALI戦V	/			
时间20千百		担	卦			
時間	授 業 計 画 項目 内容					
ਮਹਾਸ਼ 1	公衆衛生の意義と課題	(は)	 意義を理解する	Y1合		
1	公然倒生》/总我 6 味趣					
2 ~ 3	公衆衛生の発展の歴史 学ぶ		次米や我が国の公衆衛生・消毒法にかかる歴史と歴史上の人物を 学ぶ			
4~6	保健所と理容業美容業	保健所	R健所の機能と事業について把握する			
7 ∼ 8	母子保健の意義や健康管理を学ぶ					
9~11	成人・高齢者保健生活習慣病、高齢者の保健と福祉、介護保険制度について学ぶ					
12~14	精神保健	精神保	建行政について学ぶ			
15	前期テスト					
16~17	環境衛生の概要	環境と	は何かを理解する			
18~19	空気環境	空気や	大気環境を学ぶ			
20~21	温度湿度気流と健康	健康で	快適な生活について学る	,		
22~23	衣服の衛生	衣服に	ついての特性を理解する			
24~25	住居の衛生	住居の	重要性について学ぶ			
26~27	上下水道と廃棄物	公衆衛	衆衛生の基盤としての上水道廃棄物の処理システムを理解する			
28~29	衛生害虫とネズミ	健康を	建康を害する鼠族、昆虫等の対策を学ぶ・各種公害について学ぶ			
	環境保全	具体的	な衛生管理の概要につい	って理解する		
30	後期テスト					
到達目標	理容師として必要な衛生に	おける知識	哉の理解を深める			
	1・定期テスト 90% 2	・出席状況	3・学習意欲	5%		
評価方法	成績評価は秀(100~90)・ の5段階で表記する。合格評			J(69~60)・不可(59点以下)		
	授業の出席状況と受講の態	度に注意す	 ^ること			
·						

年度	2025		学科・学年	理・1		
授業科目	保健		授業方法	講義		
開講学期	前期・後期		年間授業	60時間		
授業単位数	2		必修・選択区分	必修		
担当者	杓谷知里・仲田大吾郎・斎藤	千里	実務経験のある教員	0		
実務内容	薬剤師 グリーンファーマ	シー で	ひまわり薬局 高知店	ī		
テキスト	『保健』 日本理容美容教育センター					
教育目標	国家試験に向けて、人体の構造や機能について頭頸部を中心に学び、理解を深める 保健衛生分野の職業である理容師に必要な解剖学や生理学について学ぶ					
授業概要	大使衛生分野の職業である理各師に必要な解剖学や生理学について学ぶ 人体の構造や機能を全体的に学び理解を深める 必要に応じてプリントなどを使用し理解を図る					
時間外学習						
時間	項目			内容		
1~2	はじめに	授業の	概要・人体の構造と機能	能		
3~4	人体各部の名称	人体各部の主な名称を(9つの部位)や、体の面と方向を学ぶ				
5~11	頭部・顔部・頸部	頭部・顔部・頸部の体表解剖学				
12~14	顔面	眼・耳・鼻・口とその周辺の特徴を学ぶ				
15~16	骨格器系	骨の種類と構造・骨の連結 骨格器系とそのはたらき(頭蓋・脊柱・胸郭)				
17~20	筋系	筋の種類とその特徴(筋の種類の表) 主な骨格筋とそのはたらき 表情筋と表情運動(眼・ロ・鼻や耳を中心とした筋の動き)				
21~27	神経系	神経系の成り立ち(神経大別の表)や中枢神経とそのはたらき 末梢神経のはたらき(自律神経系支配の効果の表)や仕組み				
30	前期テスト					
29~31	感覚器系	視覚・	聴覚・嗅覚・味覚・皮			
32~51	血液・循環器系		あらまし・各血球成分 環のあらまし(心臓を中			
52~57	呼吸器系	呼吸器	 系のあらまし・肺の仕れ			
58~64	消化器系	消化器系のあらまし・消化管の仕組み 消化管の働き・消化と物質代謝				
60	後期テスト	期テスト				
到達目標	理容師として必要な人体の構造や生理解剖学的な知識を系統的に理解を深める					
評価方法	1. 定期テスト 90% 2. 成績評価は秀 (100~90) ・優 の5段階で表記する。合格評価	£ (89~	·80) ·良 (79~70) ·	て 5% 可 (69~60) ・不可 (59点以下)		
	成績評価は秀 (100~90) ・優	£ (89~	·80) ·良 (79~70) ·	可(69~60)・不可(59点以下)の5		

年度	2025		学科・学年	理・1			
授業科目	香粧品化学		授業方法	講義			
開講学期	前期・後期		年間授業	30時間			
授業単位数	1		必修・選択区分	必修			
担当者	仲田大吾郎		実務経験のある教員	0			
実務内容	理容業務全般(カット・パー	-マネン	・ヘアカラー等)				
テキスト	『香粧品化学』 日本理容美	粧品化学』 日本理容美容教育センター					
教育目標	理容師に必要な香粧品化学分野の理解を深め、理容技術を高め安全に行う国家資格取得のため 実力を養う						
授業概要	テキストに沿って、香粧品概論、原料、基礎香粧品の順に講義し理解を図る						
時間外学習							
		授業	計画				
回	項目	内容					
1~9	香粧品総論	香粧品の社会的意義と品質特性を学ぶ 香粧品の定義や製造販売、品質、表示等の規制の理解を深める 香粧品の安全性と取り扱い上の注意事項を学ぶ 香粧品の安全性や表示成分、トラブル等を学ぶ					
10~14	香粧品の成り立ち	香粧品の対象となる人体各部の性状の知識を深める 水性顔料の種類と特性を学ぶ 油性顔料の種類と機能を学ぶ					
15~16	香粧品の成り立ち	界面活	性剤の基本的な性質と種	重類と香粧品への応用を学ぶ			
15	前期テスト						
18~22	香粧品の成り立ち	高分子	化合物の種類と特性、社	香粧品への応用を学ぶ			
		色材と	香粧品の関係や種類特性	生を学ぶ			
		香料の種類と調合等を学ぶ					
23~33	香粧品の成り立ち	その他の配合成分として品質保持成分や特殊成分を学ぶ					
			ネイル、まつ毛エクステンション用材料について知識を深める				
30	後期テスト						
到達目標	理容師として必要な香粧品の原料や種類、使用方法や安全性などを理解する						
	1・定期テスト(小テスト等の提出物) 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5%						
評価方法	成績評価は秀(100~90)・6 の5段階で表記する。合格評6			可(69~60)・不可(59点以下)			
履修上の注意	授業の出席状況と受講の態度	ほに注意す	ナること				

成績評価は秀(100~90)・優(89~80)・良(79~70)・可(69~60)・不可(59点以下)の5段階で表記する。合格評価は「可」以上を合格とする。

年度	2025		学科・学年	理・1	
授業科目	文化論		授業方法	講義	
開講学期	前期・後期		年間授業	30時間	
授業単位数	1		必修・選択区分	必修	
担当者	清藤千秋		実務経験のある教員	0	
実務内容	理容業務全般(カット・シェ	ービンク	ブ・ヘアカラー等)		
テキスト	『文化論』 日本理容美容教	育センタ	7 —		
教育目標	理容美容の語義や歴史を学び日本のファッション文化史及び西洋のファッション文化史を学び明代までの変遷を学び理解する				
授業概要	礼装における和と洋の違いと文化を学ぶ 「理容」「美容」とは何か 価値観や美意識の多様化やニーズの文化と歴史と変遷を学びながら日本と西洋の相違点と融合 理解を図る				
時間外学習					
	- · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	受業	計画		
時間	項目		内容		
1~14	理容業 総論 日本理容美容の歴史 縄文・		容業・美容業の発生の成り立ちを学ぶ 容業・美容業(江戸時代・近代現代)を理解する 容業、美容業の歴史の理解を深める 文・弥生・古墳時代、古代(飛鳥・奈良・平安)中世(平安・鎌倉・室町・戦国)について学ぶ		
15	<u></u> 前期テスト				
16~29	超文・ ファッション文化史 日本		文・弥生・古墳時代 代 (飛鳥・奈良・平安時代) 世 (平安時代末期・鎌倉・室町・戦国時代) 世 (戦国時代・安土桃山時代) 代 (江戸時代)		
30	後期テスト				
到達目標	理容師の歴史や流行等を知り、今後のライフスタイルに生かす				
	1・定期テスト 90% 2・	出席状況	2 5% 3・学習意欲	5%	
評価方法	成績評価は秀(100~90)・優 の5段階で表記する。合格評価			可(69~60)・不可(59点以下)	
履修上の注意	授業の出席状況と受講の態度	に注意す	-ること		

年度	2025		学科・学年	理・1				
授業科目	理容技術理論		授業方法	講義				
開講学期	前期・後期		年間授業	60時間				
授業単位数	2		必修・選択区分	必修				
担当者	仲田大吾郎・清藤千秋		実務経験のある教員	0				
実務内容	理容業務全般(カット・シ	ェービンク	ブ・ヘアカラー等)					
テキスト	『理容技術理論』 公益社	『理容技術理論』 公益社団法人日本理容美容教育センター						
数 去日播	理容師として最低限必要な	理論技術を	と理解し実践にて応用で	きる力を身に付ける				
教育目標	理論を理解し効率よい教育	方法を行い	\技術を習得する					
授業概要	技術を習得するには時間が	かかるが、	理容技術の意義を十分	理解すれば技能の習得ができる				
時間外学習								
		授業	計画					
時間	項目			内容				
1~4	はじめに	理容の	意義、職業としての理案	Fの役割と衛生に関する知識を学ぶ				
5~8	人体各部の名称	手を使って施術を行う対象となる人の頭部・顔部の名称を正し える						
9 ~ 12	理容技術の基礎・設備	技術部	位に対する位置を学ぶ					
13~19	パーマネントセット	パーマの考え方や用剤の種類・特徴・かかる仕組みを理解する						
20~23	理容用具	理容師として理容用具を学ぶにあたり、人体と用具との関係を理解する						
		用具についての基礎的な知識を学び、理解を深める						
24~29	ヘアカッティング	ヘアスタイルを実際に作る手段としてカッティング技術の必要性を 学ぶ						
-1 -1		その技術を十分理解してカッティング技術理論を学ぶ ヘアスタイルを作るための基本的な原則を理解する						
30	前期テスト							
31~34	まとめ	前期授	業の振り返り					
35~38	理容エステティック	エステ本来の目的、人間の内面的な部分に及ぶ総合的な技術である 事を学ぶ						
		肌の状	態・機器についても十分	rな理解をする				
39~45	ヘアーカラーリング		によって毛髪に様々な色 調和した美を表現するこ	色彩をあたえ、ヘアスタイルや服装・ ことを学ぶ				
46~52	シャンプーイング		毛髪美容の基本であるシャンプーを通し、頭皮・毛髪の清潔を係 ことの意義を学ぶ					
		シャン	プー剤や技法について和	学的理解を高めること学ぶ				
53~59	シェービング	シェービングにおける技術を行うにあたり皮膚と髭を十分理解する						
60	後期テスト							
到達目標	理容師として必要な技術理	論を理解す	^十 る					
	1・定期テスト 90% 2	・出席状況	1 5% 3・学習意欲	5%				
評価方法	成績評価は秀(100〜90)・優(89〜80)・良(79〜70)・可(69〜60)・不可(59点以下) の5段階で表記する。合格評価は「可」以上を合格とする。							
履修上の注意	授業の出席状況と受講の態	度に注意す	すること					
	•							

年度	2025		学科•学年	理・1		
授業科目	理容実習		授業方法	実習		
開講学期	前期・後期		年間授業	450時間		
授業単位数	15		必修・選択区分	必修		
担当者	清藤千秋・仲田大吾郎		実務経験のある教員	0		
実務内容	理容業務全般(カット・シェ	ービング	゛・ヘアカラー等)			
テキスト	『理容実習』 公益社団法人	日本理容	美容教育センター			
***	国家試験にかかる技術を習得	・理容室	こにおいて必要な接客や	技能技術を身に付ける		
教育目標	技術への科学的根拠を理解し	安全で安	心な理容技術者として	の育成を図る		
	理容技術における作業姿勢、	用具の知	識を学びそれらを使っ	た様々な技術の習得を図る		
授業概要	カッティング・ワインディング、パーマネント・ウェービング、ネイル、シャンプー、カラー、エステティック技術等					
時間外学習	実務実習において理容師として	ての基礎	的技術及び接客の理解	を深める		
	· ·	受 業	計画			
時間	項目			内容		
1~7	導入	理容技征	析における基本姿勢・月	用具説明・扱い方・実践		
		ブロッ	キング技術・方向と手順	 頁		
004	8~84 パーマネントウェービング	ワインディング・ロットの選定・角度と方向				
8~84		コーミング技術・タイムトライアル				
		大会指述	尊(Cライン巻き)			
85~142	大会練習	各競技種目練習・タイムトライアル				
143~164	デザインヘア	ブロッ	キング・デザインカット	トの基礎技術		
165~186	スタンダードヘア	ミディアムスタイル・ブロースのカットシステム及び技術姿勢を 十分に理解し技能を身につける				
187~215	大会練習	学生大会	会各競技種目練習・タイ	イムトライアル		
216~223	前期テスト	ワイン	ディング技術			
224~298	大会練習	学生大会	会各競技種目練習・タイ	イムトライアル		
299~305	学生大会	学生大	会出場及び見学			
306~334	フェイシャルトリートメント	作業位置・タオルの基本的持ち方・てん包・密着・清拭法 塗布・マッサージ・拭き取り スキンケア				
335~406	シェービング		· ズネック・シェービング、ウイッグ及び相モデルによる演習 · イースシェービング			
407~443	シャンプーイング&リンシン グ					
444~450	後期試験 シェービング及びフェイシャルトリートメント					
到達目標	国家試験の合格を目標とする	-				
	1・技術確認テスト 90% 2	2・出席	大況 5% 3・学習意	欲 5%		
評価方法	成績評価は秀(100~90)・優 の5段階で表記する。合格評価			可(69~60)・不可(59点以下)		
 履修上の注意	国家試験に必要と思われる項	目につい	 いて注音を喚起したがら	講義を進める		

実務内容	日本産業カウン セラー協会キービス接遇検定3 実践ビジネスマナーを知る 合格を目指す できるよう サービス接遇 確認を行う 授業	3級公式テキスト・サービスマナー ることから実践できるよう うな実践形式の講義 険定3級合格に向けての講覧 計画	ス接遇検定実問題集3級 になることを目指す		
授業単位数 1 担当者 西峯由規 専門学校教員・一般) 専門学校教員・一般) 一般) 日本産業カウン 早稲田教育出版 サー 株式会社ウィネット 社会人としてのビジネサービス接遇検定3級名サービス接遇検定3級名を計算を解きながらままままである。 時間 項目 1~4 基本動作言葉遣いの基本電話応対サービス接遇検定対策電話応対サービス接遇検定対策できる。 8~10 電話応対サービス接遇検定対策電話応対 11~13 サービス接遇検定対策電話応対 14~16 電話応対	(セラー協会キュービス接遇検定3 実践ビジネスティーを知る) 合格を目指す 行動できるよう。サービス接遇相 確認を行う 授業	必修・選択区分 実務経験のある教員 ンセラー協会産業カウンセャリアコンサルタント 3級公式テキスト・サービスマナー ることから実践できるよう うな実践形式の講義 検定3級合格に向けての講真	必修 ○ ラー ス接遇検定実問題集3級 になることを目指す		
担当者 西峯由規 実務内容 専門学校教員・一般) 一般)日本産業カウン 早稲田教育出版 サー 株式会社ウィネット 教育目標 社会人としてのビジネ サービス接遇検定3級名 テキストを基に実際に 過去問題を解きながら 日常生活の中で復習と 時間 項目 1~4 基本動作 言葉遣いの基本 5~7 電話応対 サービス接遇検定対策 8~10 電話応対 サービス接遇検定対策 11~13 サービス接遇検定対策 14~16 電話応対	(セラー協会キュービス接遇検定3 実践ビジネスティーを知る) 合格を目指す 行動できるよう。サービス接遇相 確認を行う 授業	実務経験のある教員 ンセラー協会産業カウンセヤリアコンサルタント 3級公式テキスト・サービスマナー ることから実践できるよう うな実践形式の講義 検定3級合格に向けての講 計画	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○		
実務内容専門学校教員・一般) 一般)日本産業カウンテキスト早稲田教育出版 サー株式会社ウィネット教育目標社会人としてのビジネサービス接遇検定3級名 テキストを基に実際に過去問題を解きながら時間日常生活の中で復習と時間項目1~4基本動作言葉遣いの基本電話応対サービス接遇検定対策電話応対サービス接遇検定対策11~13サービス接遇検定対策電話応対11~13サービス接遇検定対策電話応対14~16電話応対	(セラー協会キュービス接遇検定3 実践ビジネスティーを知る) 合格を目指す 行動できるよう。サービス接遇相 確認を行う 授業	ンセラー協会産業カウンセャリアコンサルタント 3級公式テキスト・サービスマナー ることから実践できるよう うな実践形式の講義 除定3級合格に向けての講真 計画	ス接遇検定実問題集3級 になることを目指す		
実務内容一般)日本産業カウンテキスト早稲田教育出版 サー株式会社ウィネット教育目標社会人としてのビジネサービス接遇検定3級名 テキストを基に実際に過去問題を解きながら時間外学習時間日常生活の中で復習と時間項目1~4主葉遣いの基本 電話応対サービス接遇検定対策電話応対サービス接遇検定対策11~13サービス接遇検定対策電話応対14~16電話応対	(セラー協会キュービス接遇検定3 実践ビジネスティーを知る) 合格を目指す 行動できるよう。サービス接遇相 確認を行う 授業	ャリアコンサルタント 3級公式テキスト・サービスマナー ることから実践できるよう うな実践形式の講義 検定3級合格に向けての講 計画	ス接遇検定実問題集3級 になることを目指す		
デキスト株式会社ウィネット教育目標社会人としてのビジネサービス接遇検定3級名 デキストを基に実際に過去問題を解きながら日常生活の中で復習と時間項目本動作言葉遣いの基本電話応対サービス接遇検定対策電話応対サービス接遇検定対策1~1電話応対サービス接遇検定対策11~13サービス接遇検定対策電話応対14~16電話応対	実践ビジネスマナーを知る 合格を目指す 行動できるよう サービス接遇を 確認を行う 授業 立つ姿	マナー ることから実践できるよう うな実践形式の講義 検定3級合格に向けての講 計 画	になることを目指す		
教育目標サービス接遇検定3級名授業概要テキストを基に実際に 過去問題を解きながら時間日常生活の中で復習と時間項目基本動作 言葉遣いの基本電話応対 サービス接遇検定対策8~10電話応対 サービス接遇検定対策11~13サービス接遇検定対策14~16電話応対 サービス接遇検定対策	合格を目指す :行動できるよう サービス接遇 確認を行う 授業 立つ姿	うな実践形式の講義 検定3級合格に向けての講 計 画	Š		
授業概要 過去問題を解きながら 時間 日常生活の中で復習と 時間 基本動作 言葉遣いの基本 言葉遣いの基本 電話応対 サービス接遇検定対策 8~10 電話応対 サービス接遇検定対策 11~13 サービス接遇検定対策 14~16 電話応対	が ・サービス接遇 確認を行う 授業 立つ姿	険定3級合格に向けての講真 計 画			
時間 項目 1~4 基本動作 言葉遣いの基本 電話応対 サービス接遇検定対策 電話応対 11~13 サービス接遇検定対策 14~16 電話応対	授業立つ姿	P	内容		
1~4 基本動作 言葉遣いの基本 電話応対サービス接遇検定対策 8~10 電話応対サービス接遇検定対策 11~13 サービス接遇検定対策 14~16 電話応対	立つ姿	P	内容		
1~4 基本動作 言葉遣いの基本 電話応対 サービス接遇検定対策 電話応対 11~13 サービス接遇検定対策 14~16 電話応対			勺容		
1~4 言葉遣いの基本 電話応対 サービス接遇検定対策 8~10 11~13 サービス接遇検定対策 電話応対 サービス接遇検定対策 電話応対			, II		
5~7 電話応対 サービス接遇検定対策 8~10 電話応対 サービス接遇検定対策 11~13 サービス接遇検定対策 14~16 電話応対		つ姿勢・お辞儀の仕方・椅子の立ち座り・歩き方・表情・発声 習			
5~7 サービス接遇検定対策 8~10 電話応対 サービス接遇検定対策 11~13 サービス接遇検定対策 14~16 電話応対	話の仕	話の仕方、話の聞き方・敬語の基本・間違えやすい敬語			
サービス接遇検定対策 8~10 電話応対 サービス接遇検定対策 11~13 サービス接遇検定対策 電話応対	電話応対の注意点・電話の受け方の基本				
8~10 サービス接遇検定対策 11~13 サービス接遇検定対策 電話応対 電話応対	過去問	題①を解く・解説			
電話応対 14~16		受け方の基本 題②を解く・解説			
14~16	過去問	題③④を解く・解説			
サービス接遇検定対策		モの作成 題⑤を解く・解説			
電話応対 17~19 サービス接遇検定対策		こんな電話の時あなたは 過去問題⑥を解く・解説			
20~23 サービス接遇検定対策	過去問	題⑦⑧を解く・解説			
24~30 説明会など	就職に	関係する説明会や各種セ	ミナー		
到達目標	サービス接遇検定3級の取得 到達目標 就職活動や入社時に好印象を与える社会人のマナーの習得を目指す				
	1・修得状況テスト 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5%				
履修上の注意 受講時はビジネススー					

年度	2025		学科・学年	理・1		
授業科目	総合教養		授業方法	講義		
開講学期	前期・後期		年間授業	30時間		
授業単位数	1		必修・選択区分	必修		
担当者	仲田大吾郎・大倉美智子		実務経験のある教員	0		
実務内容	理容業務全般(カット・シ	ェービンク	ブ・ヘアカラー等)			
テキスト	開講時に担当教員が指示及び配布する					
教育目標	「自分」と「将来」を見つ	けるために	こ研究し理解する			
授業概要	個の可能性を無限に広げ、	確かな基礎知識・技術に加え、考えるための道具=方法を身に付ける 固の可能性を無限に広げ、学ぶ喜びを図る 業界や異業種の講師を迎えて講話等を行い、働く意義等の理解を図る				
時間外学習	技術の自己研鑽					
授業計画						
時間	項目	内容				
1~3	はじめに	セミナー コミュニケーション能力向上に向けた講話				
4~11	講話	セミナー 今を有意義なものにする思考法 働くことの意義など				
12~14	講話・ワークショップ	セミナー 先輩理美容師の人生を聞き目指す理美容師像を描く				
15~17	パーソナルカラー	「色の三属性」「ガイダンス」「色相」 「色相環」「慣用色名」				
18~23	4シーズンタイプ 「トーン」	「等色相面」「トーン表」				
22~24	似合わせテクと「色素」	理論「	色素と似合う色」「自っ	分の色素」「対比・光と色」		
25~27	検定対策	タブレ	ットを使用した模擬試験	験		
28~30	検定	3級取得	鼻を目指す			
到達目標	理容師として必要な基礎的な教養などを身につける					
評価方法	1・作文提出 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5% 評価方法 成績評価は秀 (100~90) ・優 (89~80) ・良 (79~70) ・可 (69~60) ・不可 (59点以下) の5段階で表記する。合格評価は「可」以上を合格とする。					
履修上の注意	授業の出席状況と受講の態	度に注意す	ナること <u></u>			

年度	2025		学科・学年	理・1	
授業科目	総合技術		授業方法	実習・講義	
年間授業時間	300(各科目合計)		必修・選択区分	必修	
授業単位数	10				
授業科目	総合技術(ミディアムカッ	F)	授業方法	実習	
開講学期	前期		年間授業	20	
授業単位数			必修・選択区分	必修	
担当者	清藤 千秋		実務経験のある教員	0	
実務内容	理容業務全般(カット・シェー	ービンク	ゲ・ヘアカラー等)		
テキスト	『理容技術理論』『理容実習』	公益	监社団法人日本理容美容	教育センター	
教育目標	各技法の勉強も含めカットの	システュ	ム及び技術姿勢を理解す	- ₋ S	
授業概要	寝かせる部分と刈り上げる部分を組み合わせるスタイルで、スタンダードへアカット 解を図る				
			計画		
回数	項目			内容	
	理論中髮型		! (ミディアムヘア)		
1	技術 基本導		姿勢・姿勢の変化・用具の持ち方と操作		
2	細かく規定された位置や姿勢、運行角度や櫛数などを する 技術				
3			的な裏付けを十分に理解し繰り返し習得する		
到達目標	最大のパートナーであるお客札 れるよう理解を深める	兼の信頼	頭を得るために技術を磨	うくとともにお客様から喜びを受け取	
授業科目	総合技術(アイロン技術)	授業方法	実習	
開講学期	後期		年間授業	10	
授業単位数			必修・選択区分	必修	
担当者	坂本 康正		実務経験のある教員	0	
実務内容	理容業務全般(カット・シェー	ービング	グ・ヘアカラー等)		
テキスト	『理容技術理論』『理容実習』	公益	益社団法人日本理容美容	教育センター	
教育目標	各技法の勉強も含めカットの: アイロンをぶれないようにして グする			ンションをかけれるようトレーニン	
授業概要	アイロンを使用してもパーマス	ネントワ	ウェーブと同じような効	果を得られることを学ぶ	
		美業	計画		
回数	項目			内容	
1		アイロ	ンの持ち方・姿勢・操作・	ウィッグカット・ドライヤーセット	
2	技術	平アイ	ロンセット・ウィッグ	カット・パンチアイロン操作	
3		パンチ	アイロン操作・丸アイロ	コン操作 丸アイロンパーマ	

年度	2025		学科・学年	理・1	
授業科目	総合技術(コールドウェー	-ブ)	授業方法	実習	
開講学期	前期		年間授業	20	
授業単位数			必修・選択区分	必修	
担当者	清藤 千秋		実務経験のある教員	0	
実務内容	理容業務全般(カット・シェ	ービング	グ・ヘアカラー等)		
テキスト	『理容技術理論』『理容実習』 公益社団法人理容美容教育センター				
教育目標	コールドパーマネントウェーブの用剤・用具・テクニックの修得とネイル技術を習得し、理容室 において必要な接客や技能を身に付け安全で安心な理容技術者の育成を図る				
極紫輝電	ボリュームとロッドの選定や	毛束の角	角度の出し方を学ぶ		
授業概要	ロッドの形状によるウェーブ、カール、ロール仕上がりを見る				
		受 業	計画		
回数	項目			内容	
	オールバックスタイル 男性の基本スタイルを学ぶ				
1 0	サイドパート	流行・	・時代・世代にとらわれず好まれるスタイルを学ぶ		
1~3	サーファースタイル	男性・	・女性を問わず好まれるスタイルを学ぶ		
	各スタイルの仕上げ	用剤の)塗布の仕方や反応のチェックなどを行う		
授業科目	総合技術(デザインカッ	ト)	授業方法	実習	
開講学期	前期		年間授業	20	
授業単位数			必修・選択区分	必修	
担当者	清藤 千秋		実務経験のある教員	0	
実務内容	理容業務全般(カット・シェー	ービング	・ヘアカラー等)		
教育目標	デザインへアをつくるための目的に応じたシザーズやコームの持ち方・操作・技法を学ぶ 理容師として必要な刃物の構造や頭部の成り立ちを理解し、それぞれに対応するへアデザイン設				
	計の仕方を学ぶ				
授業概要	基本のカット順序の応用、それぞれの長さと共に変化するカット技法の違いその範囲に納まるスタイルの理解を図る				
	· 1	受業	計画		
回数	項目			内容	
1	理論 用具の持ち方と操作 ブロッキング	デザインカットの基本パターンや方法などを学ぶ			
2	デザインカットの基礎技術	基本パターンで作られるヘアスタイルの実際 ワンレングス・グラデーション・レイヤー・スクエア			
3	デザインカットの基礎技術		ターンで作られるヘアン ー・スクエア	スタイルの実際	

年度	2025		学科・学年	理・1	
十尺	2023		一	左 1	
授業科目	総合技術(設計工学)		授業方法	実習	
開講学期	前期		年間授業	10	
授業単位数			必修・選択区分	必修	
担当者	清藤 千秋		実務経験のある教員	0	
実務内容	理容業務全般(カット・シェー	-ビング	・ヘアカラー等)		
教育目標	デザインへアをつくるための目的に応じたシザーズやコームの持ち方・操作・技法を学ぶ 理容師として必要な刃物の構造や頭部の成り立ちを理解し、それぞれに対応するへアデザイン設計の仕方を学ぶ				
授業概要	基本のカット順序の応用、それぞれの長さと共に変化するカット技法の違いその範囲に納まる タイルの理解を図る 刃物の切れ味や研磨の影響、金属の性質・硬さなどを理解し実際に研磨を行い理解を図る				
	項目				
1~2	頭を類のバランス・総合 デザイ		デインヘアをつくるための目的に応じたシザーズやコームの デ・操作・技法を学ぶ		
授業科目	美肌		授業方法	講義	
開講学期	前期		年間授業	10	
授業単位数			必修・選択区分	必修	
担当者	阿部 和美		実務経験のある教員	0	
 実務内容	理容業務全般(カット・パー	マネン	ト・ヘアカラー等)		
テキスト	美肌検定の教科書				
教育目標	皮膚の仕組み働きを学びセルケアの方法を学ぶ				
授業概要	<u> </u>	 受 業	計 画		
時間	項目	、 禾	<u> </u>	内容	
1~2	正しい美肌ケアの基本の「キ」	美肌に	見せる条件 美肌の基準		
1 2				1.	
3 ∼ 5	美肌とかかわりの深い 4 大ホ ルモン				
	美肌を邪魔する4つの大敵	大敵			
6 ∼ 7	日々の手入れに欠かせない化 粧品のこと	美肌の	第一歩		
8~9	肌を巡らせるフェイシャル マッサージ		シャルマッサージの効:		
	ボディーのセルフケア	自分で	できる簡単ボディマッ	サージ	
10	美肌検定				

年度	2025		学科・学年	理・1	
授業科目	総合技術(フォト)		授業方法	実習	
開講学期	後期		年間授業	20	
授業単位数			必修・選択区分	必修	
担当者	氏川りの		実務経験のある教員	0	
実務内容	フォト作品の基本的手技を習得				
教育目標	作品作りにおける構想と手順	について	の感性を磨く		
松光 栖田	自身のフォトブックやSNS等で	でどのよう	な発信ができている	かが採用の決め手となる。	
授業概要	自身の作品を撮りためること	により就	職活動に大変有利なた	. W	
	· į	授業	計 画		
回数	項目			内容	
1	講師作品展示講師に、		この作品制作・撮影		
2	イメージ決め 作品撮		に向けて、テーマ・	イメージ・モデル決め等	
3	作品制作作品制作		作(ヘアー・メイク・衣装)その後各グループ撮影		
4	作品制作作品制作		川作(ヘアー・メイク・衣装)その後各グループ撮影		
5	発表 テーマ		の発表・投票・優秀作品発表		
到達目標	作品撮りへの興味、表現することの楽しさ、センスの成長などモチベーションアップ				
授業科目	RTカット		授業方法	実習	
開講学期	後期		年間授業	20	
授業単位数			必修・選択区分	必修	
担当者	青木りお		実務経験のある教員	0	
実務内容	美容業務全般(カット・パー	マネント	・ヘアカラー等)		
テキスト	『美容技術理論』『美容実習	日本	理容美容教育センター	-	
教育目標	カット・ブローの基礎的な技全で安心な美容技術者として			る要な接客や技能技術を身に着けて安	
授業概要	基本的なカッティング技術、	理論及び	ブローセットを実習・	実践にて習得	
		授 業 :	計 画		
回数	項目			内容	
1	講師作品展示	講師によ	こる作品制作・撮影		
2	イメージ決め	作品撮り	最りに向けて、テーマ・イメージ・モデル決め等		
3	作品制作	作品制作(ヘアー・メイク・衣装)その後各グループ撮影			
4	作品制作	作品制作	= (ヘアー・メイク・?	衣装)その後各グループ撮影	
5	発表	テーマの)発表・投票・優秀作品	品発表	
到達目標	作品撮りへの興味、表現する	ことの楽	しさ、センスの成長な	さどモチベーションアップ	

提案科目 総合技術 (ネイル) 授業方法 実習 国際学期 後期 年間交響 40 26 近秋区分 26 26 26 26 26 26 26 2	年度	2025		学科・学年	理・1		
投業単位数	授業科目			授業方法	実習		
担当者 大野 衆 実務経験のある教員 ① 実務内容 理容業務全般 (カット・バーマネント・ハブカラー等) アキスト 『理容技権阻論』 理容実習』 口本理容美容教育センター 教育目標 表れれ技術を実習にて習得する 技業 計	開講学期	後期		年間授業	40		
実務内容 理容実務全般 (カット・バーマネント・ヘアカラー等) アキスト 理容技術理論』『理容実習』 日本理容実容数育センター ネイル技術を実際において必要な疲客や技能技術を身に付け安全で安心な美容技術者としての育成を図る 技 業 計 面 内容	授業単位数			必修・選択区分	必修		
	担当者	矢野 愛		実務経験のある教員	0		
教育日標 ネイル技術を習待・美容室において必要な接客や技能技術を身に付け安全で安心な美容技術者としての育成を図る 授業概要 基本的なネイル技術を実習にて習得する 授 業 計 画 内容 道具配付・理論 基礎理論・道具と手順を理解し、衛生処理や道具の取り扱いなどを実践で修得する ケアや般 平筒の扱い方、ケアの工能を理解し技術を習得する ホ色に映えるアートやパンスを理解し技術を習得する ませ試験に基づいた実践作業を反復練習することで検定に備える 37~40 検定 3級検定 到達目標 ネイル検定3級取得に向けた基礎的ネイル技術を習得 20 投業単位数 後期 年間授業 20 必修・選択区分 必修 担当者 横山 哲也 実務経験のある教員 ○ デキスト 『理等・美等技術建論』『理字・美等実習』 日本理容美容教育センター教育目標 安全で安心な実治技術者としての育成を図る という で、第十年 で、東京社・地大学の文部大学を表示を持続を身に付け、安全で安心な実治技術者としての育成を図る という で、第一年 で、東京社・地大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大	実務内容	理容業務全般(カット・パー	マネン	ト・ヘアカラー等)			
大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学	テキスト						
授業 新 画 内容 日本 内容 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日	教育目標						
回数 項目	授業概要	基本的なネイル技術を実習にて習得する					
1~7 道具配付・理論		挖	受 業	計画			
	回数	項目			内容		
8~36	1~7	道具配付・理論					
実技試験に基づいた実践作業を反復練習することで検定に備える 37~40 検定 3級検定 3級検定 到達目標 ネイル検定3級取得に向けた基礎的ネイル技術を習得 授業科目 総合技術 (シャンプー) 授業方法 実習 開課学期 後期 年間授業 20 授業単位数 必修・選択区分 必修 担当者 機山 哲也 実務経験のある教員 ○ 東務内容 理容業務全般 (カット・パーマネント・ヘアカラー等) テキスト 『理容・美容技術理論』 『理容・美容実習』 日本理容美容教育センター 教育目標 ヘアカラーとシャンプーイング技術を習得・理容室において必要な接客や技能技術を身に付け、安全で安心な美容技術者としての育成を図る 提業概要 基本的なシャンプーイング技術を実習にて習得・ヘアカラーによる強布の手順・染毛剤と染毛料の強布、染毛剤の調合、新生毛と既染部の強布技術の理解と習得 授業計画 回数 項目 内容 クロス掛け、ブラッシング、シャンプーイング手順 (サイド)を理解する サイド及びバックシャンプーの一連の動作を習得する シャンプー技術 シャンプー技術 フィング・シャンプーの一連の動作を習得する トリートメント トリートメント トリートメント トリートメント ヘア・スカルプチュア)、ヘアパック、ヘッドマッサージ操作手順を習得する		ケア全般	手指の扱い方、ケアの工程を理解し技術を習得する				
37~40 検定 3級検定 3級検定 到達目標 ネイル検定3級取得に向けた基礎的ネイル技術を習得 授業科目 総合技術 (シャンプー) 授業方法 実習 関講学期 後期 年間授業 20 20 20 20 20 20 20 2	8~36	カラーリング 赤色に		こ映えるアートやバランスを理解し技術を習得する			
到達目標 ネイル検定3級取得に向けた基礎的ネイル技術を習得 授業科目 総合技術 (シャンプー) 授業方法 実習		アート	実技試験に基づいた実践作業を反復練習することで検定に備える				
授業科目 総合技術 (シャンプー) 授業方法 実習 関講学期 後期 年間授業 20 必修・選択区分 必修 担当者 世容業務全般 (カット・パーマネント・ヘアカラー等) テキスト 『理容・美容技術理論』『理容・美容実習』 日本理容美容教育センター 教育目標 ヘアカラーとシャンプーイング技術を習得・理容室において必要な接客や技能技術を身に付け、安全で安心な美容技術者としての育成を図る 基本的なシャンプーイング技術を実習にて習得・ヘアカラーによる塗布の手順・染毛剤と染毛料の塗布、染毛剤の調合、新生毛と既染部の塗布技術の理解と習得 授業計画 回数 項目 内容 内容 クロス掛け、ブラッシング、シャンプーイング手順 (サイド)を理解する センプー披輪 サイド及びバックシャンプーの一連の動作を習得する マャンプー連の手順、サンス、タオルドフィ、誘導、ヘアドフィーバックシャンプー等一連の操作手順を習得する トリートメント トリートメント (ヘア・スカルプチュア)、ヘアバック、ヘッドマッサージ操作手順を習得する トリートメント (ヘア・スカルプチュア)、ヘアバック、ヘッドマッサージ操作手順を習得する トリートメント トリートメント (ヘア・スカルプチュア)、ヘアバック、ヘッドマッサージ操作手順を習得する トリートメント (ヘア・スカルプチュア)、ヘアバック、ヘッドマッサージ操作手順を習得する トリートメント (ヘア・スカルプチュア)、ヘアバック、ヘッドマッサージ操作手順を習得する トリートメント (ヘア・スカルプチュア)、ヘアバック、ヘッドマッサージ操作手順を習得する トリートメント (ヘア・スカルプチュア) ・ヘアバック・ヘッドマッサージ操作手順を習得する トリートメント (ヘア・スカルプチュア) ・ヘアバック・ヘッドマッサージ操作手順を習得する トリートメント トリートリート トリートリート トリートリート トリートリート トリートリート トリートリート トリートリート トリートリート トリート トリートリート トリート トリートリート トリートリート トリート トリ	37~40	検定 3級検定					
開講学期 後期 年間授業 20 授業単位数 必修・選択区分 必修 担当者 横山 哲也 実務経験のある教員 ○ 実務内容 理容・美容技術理論』『理容・美容表習』 日本理容美容教育センター テキスト 『理容・美容技術理論』『理容・美容実習』 日本理容美容教育センター ペアカラーとシャンプーイング技術を習得・理容室において必要な接客や技能技術を身に付け、安全で安心な美容技術者としての育成を図る 基本的なシャンプーイング技術を実習にて習得・ヘアカラーによる塗布の手順・染毛剤と染毛料の塗布、染毛剤の調合、新生毛と既染部の塗布技術の理解と習得 授業計画 回数 項目 内容 1~7 シャンプー概論 クロス掛け、ブラッシング、シャンプーイング手順(サイド)を理解する サイド及びバックシャンプーの一連の動作を習得する シャンプー・運の事順、リンス、タオルドライ、誘導、ペアドフィックシャンプー・運の操作手順を習得する ヘアトリートメント トリートメント(ヘア・スカルプチュア)、ヘアパック、ヘッドマッサージ操作手順を習得する	到達目標	ネイル検定3級取得に向けた基	礎的ネ	イル技術を習得			
授業単位数	授業科目	総合技術(シャンプー) 授業方法 実習					
担当者 横山 哲也 実務経験のある教員 ○ 実務内容 理容業務全般(カット・パーマネント・ヘアカラー等) 「理容・美容技術理論』『理容・美容実習』 日本理容美容教育センター 教育目標 ヘアカラーとシャンプーイング技術を習得・理容室において必要な接客や技能技術を身に付け、安全で安心な美容技術者としての育成を図る 授業概要 基本的なシャンプーイング技術を実習にて習得・ヘアカラーによる塗布の手順・染毛剤と染毛料の塗布、染毛剤の調合、新生毛と既染部の塗布技術の理解と習得 授業計画 回数 項目 内容 1~7 シャンプー概論 クロス掛け、ブラッシング、シャンプーイング手順(サイド)を理解する シャンプー機論 サイド及びバックシャンプーの一連の動作を習得する。シャンプー・運の手順、リンス、タオルドライ、誘導、ヘアドフィバックシャンプー等一連の操作手順を習得する トリートメント(ヘア・スカルプチュア)、ヘアパック、ヘッドマッサージ操作手順を習得する	開講学期	後期		年間授業	20		
実務内容 理容業務全般 (カット・パーマネント・ヘアカラー等) テキスト 『理容・美容技術理論』『理容・美容実習』 日本理容美容教育センター 教育目標 ヘアカラーとシャンプーイング技術を習得・理容室において必要な接客や技能技術を身に付け、安全で安心な美容技術者としての育成を図る 授業概要 基本的なシャンプーイング技術を実習にて習得・ヘアカラーによる塗布の手順・染毛剤と染毛料の塗布、染毛剤の調合、新生毛と既染部の塗布技術の理解と習得 授業計画 回数 ロス掛け、ブラッシング、シャンプーイング手順(サイド)を理解する シャンプー概論 サイド及びバックシャンプーの一連の動作を習得する。シャンプー・運の手順、リンス、タオルドライ、誘導、ヘアドフィックシャンプー等一連の操作手順を習得する トリートメント (ヘア・スカルプチュア)、ヘアパック、ヘッドマッサージ操作手順を習得する	授業単位数			必修・選択区分	必修		
テキスト 『理容・美容技術理論』『理容・美容実習』 日本理容美容教育センター 教育目標 ヘアカラーとシャンプーイング技術を習得・理容室において必要な接客や技能技術を身に付け、安全で安心な美容技術者としての育成を図る 授業概要 基本的なシャンプーイング技術を実習にて習得・ヘアカラーによる塗布の手順・染毛剤と染毛料の塗布、染毛剤の調合、新生毛と既染部の塗布技術の理解と習得 授業計画 回数 1~7 シャンプー概論 クロス掛け、ブラッシング、シャンプーイング手順(サイド)を理解する サイド及びバックシャンプーの一連の動作を習得する シャンプー技術 サイド及びバックシャンプーの一連の動作を習得する バックシャンプー等一連の操作手順を習得する トリートメント トリートメント (ヘア・スカルプチュア)、ヘアパック、ヘッドマッサージ操作手順を習得する	担当者	横山 哲也		実務経験のある教員	0		
教育目標 ヘアカラーとシャンプーイング技術を習得・理容室において必要な接客や技能技術を身に付け、安全で安心な美容技術者としての育成を図る 授業概要 基本的なシャンプーイング技術を実習にて習得・ヘアカラーによる塗布の手順・染毛剤と染毛料の塗布、染毛剤の調合、新生毛と既染部の塗布技術の理解と習得 授業計画 回数 回数 項目 1~7 シャンプー概論 タロス掛け、ブラッシング、シャンプーイング手順(サイド)を理解する サイド及びバックシャンプーの一連の動作を習得する シャンプー技術 サイド及びバックシャンプーの一連の動作を習得する ペアトリートメント トリートメント(ヘア・スカルプチュア)、ヘアパック、ヘッドマッサージ操作手順を習得する	実務内容	理容業務全般(カット・パーマネン)		ト・ヘアカラー等)			
安全で安心な美容技術者としての育成を図る	テキスト	『理容・美容技術理論』『理容・美容実習』 日本理容美容教育センター					
でである。	教育目標						
回数 項目 内容 1~7 シャンプー概論 クロス掛け、ブラッシング、シャンプーイング手順(サイド)を理解する サイド及びバックシャンプーの一連の動作を習得する シャンプー連の手順、リンベ、タオルトライ、誘導、ヘアトプイイがタクシャンプー等一連の操作手順を習得する 8~16 トリートメント (ヘア・スカルプチュア)、ヘアパック、ヘッドマッサージ操作手順を習得する	授業概要						
1~7 シャンプー概論 クロス掛け、ブラッシング、シャンプーイング手順(サイド)を 理解する サイド及びバックシャンプーの一連の動作を習得する シャンプー技術 サイド及びバックシャンプーの一連の動作を習得する バックシャンプー等一連の操作手順を習得する 8~16 トリートメント (ヘア・スカルプチュア)、ヘアパック、ヘッド マッサージ操作手順を習得する			受 業	計画			
### 10 #### 10 ### 10 ### 10 ### 10 ### 10 ### 10 ### 10 ### 10 ### 10 #### 10 ### 10 ### 10 ### 10 ### 10 #### 10 ### 10 ### 10 ### 10 ### 10 ### 10 ### 10 ### 10 ### 10 ### 10 ### 10 ### 10 ### 10 ####	回数	項目			内容		
シャンプー技術 ジャンプー一連の手順、リンス、タオルドライ、誘導、ヘアドライ 8~16 バックシャンプー等一連の操作手順を習得する トリートメント (ヘア・スカルプチュア)、ヘアパック、ヘッドマッサージ操作手順を習得する	1~7	シャンプー概論					
マッサージ操作手順を習得する	8~16	シャンプー技術		ブーー連の手順、リンス、タオルドライ、誘導、ヘアドラ			
17~20 テスト		ヘアトリートメント					
	17~20	テスト					

年度	2025		学科・学年	理・1			
十汉	2020	2020		Æ 1			
授業科目	総合技術(カラー)		授業方法	実習			
開講学期	後期		年間授業	30			
授業単位数			必修・選択区分	必修			
担当者	仲田 大吾郎		実務経験のある教員	0			
実務内容	理容業務全般(カット・パーマネント・ヘアカラー等)						
テキスト	『理容・美容技術理論』『理	容・美額	容実習』 日本理容美容	教育センター			
教育目標		カラーの基礎的な技術を習得し、美容室において必要な接客や技能技術を身に着けて安全で安心 な美容技術者としての育成を図る					
授業概要	ヘアカラーによる塗布の手順 術の理解と習得	・染毛剤	削と染毛料の塗布、染毛	・剤の調合、新生毛と既染部の塗布技			
	İ	受業	計画				
時間	項目			内容			
1~4	カラー概論	カラーの目的、カラー剤の種類、カラー用具、塗布の手順につい て学ぶ					
		タイプ別の塗布 (新生毛、リタッチ) 技術、乳化、コーミング等の実習する					
4~20	[M&1F 1/2 T- 4]]	白髪染め(新生毛、リタッチ)技術をウィッグを使い実践作業を 行う					
		ロング	ロング、ショートヘア技術・スライシング・ウィービングを学ぶ				
21~30							
	理容師に必要なヘアカラーの	理容師に必要なヘアカラーの知識と技術を身に付ける					
授業科目	総合技術 (エステ)						
 開講学期	後期	後期		20			
			必修・選択区分				
担当者	清藤千秋・遠藤悠子		実務経験のある教員	0			
	美容業務全般(カット・パー	マネン	ト・ヘアカラー等)				
テキスト	『美容技術理論』『美容実習] 日2		-			
教育目標	エステティック技術の基礎を習得・美容室において必要な接客や技能技術を身に付け安全で安心 な美容技術者としての育成を図る						
授業概要	エステティックの基本的な手順を実践にて習得						
	授業計画						
	項目						
1	エステティック	心得・	作業姿勢・備品説明・~	 ベット準備・ワゴンセットの習得			
	フェイシャルエステティックの目的・効果について質						
0	ファイシャル	基本技	法・美容機器の取り扱い	ハや効果を理解する			
2	フェイシャル及びデコルテ フェイシャル及びデコルテ フェイシャル~デコルテまでの実際						
3	サロン技術	.	セリングの実際 サロン				
 到達目標	美容師に必要なヘアカラーの						
21~L IV	NOT THE TOTAL OF THE PROPERTY						

年度	2025		学科・学年	理・1			
授業科目	総合技術(ヘッドスパ	総合技術(ヘッドスパ)		実習			
開講学期	後期		年間授業	20			
授業単位数			必修・選択区分	選択専門			
担当者	森澤 佐枝		実務経験のある教員	0			
実務内容	理容業務全般(カット・パーマネント・ヘアカラー等)						
テキスト	『理容技術理論』『理容実習』 日本理容美容教育センター						
教育目標	癒しの技術であるヘッドスパから美と健康に関する技術・製品の研究開発を行い、新たな美容産 業の発展と進歩に取り組み、美と癒しを通して人々に幸福と健康を提供できる知識を深める						
授業概要	ヘッドスパに必要な人体生理学や環境に配慮した用品の選択や技術の習得を図る						
		授業	計 画				
時間	項目			内容			
1~20	概論及び実践	タオル、クロスのかけ方・ブラシの持ち方・姿勢・手順を学ぶ					
		サイドシャンプー (すすぎ・すすぎ技術の実際)・シャワーヘッドの持ち方などを学ぶ					
704.0	適正な首の位置と高さを理解し手順を習得する						
到達目標	美容師に必要なヘアカラーの	対職と1		c∓: <u>Л</u> Б			
授業科目	シェービング		授業方法	実習			
開講学期 授業単位数	後期		年間授業 必修・選択区分	20 必修			
担当者	清藤 千秋		実務経験のある教員	光·順			
上三百 実務内容				O			
テキスト	理容業務全般(カット・シェービング・ヘアカラー等)						
教育目標	『理容技術理論』『理容実習』 公益社団法人日本理容美容教育センター メンズ・レディース・ブライダルなどのシェービング技術とエステ技術の両方を学ぶ						
授業概要	お顔そりからデコルテや背中までカミソリを使ったシェービングケアを学ぶ						
汉未晚女				. 2 7 7 7 2 7%			
 時間	項目	授 業 計 画 内容					
1~4	理論・導入	皮膚の構造・感覚やひげ、衛生面や感染症、シェービングの種類 について学ぶ					
		シェービングを実現するための作業姿勢・位置・イスの操作など を学ぶ					
5 ∼ 7	レザーの持ち方 運行操作	レザーの持ち方から操作の原理を理解する					
8~14	メンズ・レディース シェービング	シェービング及びグルーミング術を理解する					
15~20	確認テスト						